

季
刊



KIKAN
KADENSHA
vol.12
2018/8/1

赤ちゃんの時期に何を体験するか？

2歳未満の赤ちゃんのための演劇があります。セリフも筋書きもありません。理解出来るのか？ という疑問はナンセンスで、赤ちゃんたちは演者のパフォーマンスに嬉々として反応し、積極的に関わってきます。今、子育てのアイテムのひとつとして注目を集めています。

人は乳幼児期の6歳までに感情をコントロールする性質が決まってきます。ですからそれまでに何を体験するかがとても大切なのです。その時期にどんな環境で育ったか？ 触覚、嗅覚などが鋭敏な時期に何に触れたか？ その体験を豊かにする作品づくりが、日本でも十数年前から見られます。個別に試行錯誤されてきましたが、それを理論化、予算化してもっと広めようと始めたのが「ベイビーミニシアター」です。演者と赤ちゃんのコミュニケーションが重要なので、観客は多くて20組程度。普及の難しさはあります。けれど大掛かりな場の設えは不要で、靴一つで全国に持って行けるのがウリです。一緒に体験したお母さん、お父さんが、この体験を持ち帰って子育てに活かして欲しい。そんな想いで作品をつくっています。

太田 昭 (演劇プロデューサー／児演協理事)